



株式会社 花食



新年、あけましておめでとうございます。新しい年がスタートしました！手洗いやうがいをきちんとして、しっかりとご飯を食べて丈夫な体を作っていきます。新年の食べ物といえば、お雑煮や七草を思い浮かべるかもしれません。旬の食材を楽しみながら、今年一年元気に過ごしていきましょう。

【寒さに負けない体をつくろう！】

寒さも日に日に厳しくなり、乾燥することで風邪やインフルエンザ、コロナウイルスに感染しやすくなります。栄養バランスの良い食事で体の抵抗力を高め、寒さに負けない体をつくりましょう。特に感染予防に効果的な栄養素であるビタミン A、ビタミン C、たんぱく質を十分にとりましょう。

【ビタミンA】	【ビタミンB】	【たんぱく質】
のどや鼻、呼吸器などの粘膜を丈夫にする	ウイルスによる病気を予防し、回復力を早める	体を温め、体力を維持する
 レバー  うなぎ  春菊  ブロッコリー  かぼちゃ  人参	 さつまいも  ピーマン  ほうれん草  みかん  いちご  キウイフルーツ	 魚  肉  卵  豆腐  納豆  牛乳

～体を温める食品～



【生姜】

生姜の辛み成分のジンゲロールや、ジンゲロールが加熱により変化したショウガオールは、血管を拡張させて血の通りをよくすることで、手足の末端まで熱がいきわたりやすくしてくれます。細かく刻むか、すりおろすと効率よく摂れます。

【にんにく/たまねぎ/長ねぎ/ニラ】

独特なおい・辛み成分であるアリシン(硫化アリル)は末梢血管を拡張させ、血行を促します。



【とうがらし】

辛み成分であるカプサイシンは末梢血管の血流を改善し、体を温める作用があります。加熱しても壊れにくいのも特徴です。

【発酵食品】

体や内臓が冷えれば胃腸の動きも悪くなります。胃腸の動きが悪くなると、さらに冷えも悪化するため、腸の動きを活発にしてくれる発酵食品を摂ることも大切です。



【七草粥】

1月7日は七草粥を食べて無病息災を願う日です。7日の朝に無病を祈って7種類の野菜を粥に入れて食べます。もともとは中国の風習で、春の七草を粥に煮込んで神様に供えるとともに、家族で食べ、万病や邪気を払うために行われた行事でした。お正月で疲れた胃腸をいたわる効果もあります。

① せり

七草の中でも爽やかで独特な香りが食欲を刺激する効果があります。鉄分が多く含まれており、体内の血流量を増やす効果が期待できる種類の七草です。

② なずな

別名ペンペン草ともいわれ、日本各地に自生していますが、かつては冬の貴重な野菜とされていました。解熱効果や利尿作用があるといわれています。

③ ごぎょう

別名は母子草で草餅の元祖として用いられていました。痰や咳に効果があり、のどの傷みを和らげることから風邪予防に使用されていました。

④ はこべら

昔から腹痛薬として用いられ、胃炎に効果があります。

⑤ ほとけのざ

七草の中でも胃を健康にし、食欲増進、歯痛にも効果があるといわれています。

⑥ すずな

現在でいうカブのことです。胃腸を整え、消化を促進します。

⑦ すずしろ

現在でいう大根のことです。消化を助け、風邪予防や美白効果優れています。



【鏡開き】

1月11日は鏡開きです。鏡開きは、お正月の間に年神様の依り代として飾っておいた鏡餅を下げていただきます。年神様の宿る鏡に見立てた餅を開くことで年神様をお見送りし、さらにお餅を食べることで年神様の恩恵を体内に取り込み、無病息災を願います。

お餅は、お正月には欠かせない食べ物です。現在では、うるち米を粉にした上新粉をもち状にしたものや、白米やもち米を炊いた後についたものを、主に「餅」と呼んでいます。

もち米を通常より1目盛り多い水量で炊き、炊きあがった米にきな粉を付けるだけで柔らかいきな粉餅が簡単にお家で作れますので、ぜひお家でもやってみてください♪

【お餅を食べるときは気を付けて！】

餅は日本の伝統的な食べ物です。のどに詰まらせるので危ないといって出さないのではなく、食べ方や与え方に注意しておいしく食べましょう。

～お子様がお餅を食べるときの注意点～

- ① 小さめにちぎる ② きな粉などをまぶして食べやすくする ③ 切れ込みを入れて焼く ④ 口に入れさせすぎない ⑤ 食べている時に目を離さない etc…

